

サン・マンデ市子ども議会を視察

サン・マンデ市長の招待により、2009年12月10日（木）、同市の子ども議会を視察しました。フランスでは、多くの市町村で子ども議会が設けられています。



サン・マンデ市子ども議会本会議

■サン・マンデ市子ども議会の概要

サン・マンデ市は、パリ市東部に隣接する、人口約2万人、面積約0.9km²の地方自治体です。

市では、①子どもたちの純真な目を通して大人たちが見過ごしてきたことを捉え、それらを市政に反映させるため、②市政への参画によって、子どもたちの社会性を育てるため、また、③いろいろな立場の人と議論する場を持つことによって、相手の意見を聞き、尊重する子どもを育成するため、子ども議会を設置しています。

子ども議員は、9歳～13歳までを対象（日本の小学4年生から中学2年生に該当）としており、現在、学校単位での生徒による選挙によって選ばれた28名が任期2年の「議員」として活動しています。

これらの子ども議員は、5つの委員会（小学生議員で構成される4つの分野別委員会と中学生議員で構成される中学生委員会）に分かれ、それぞれの委員会において、市民の生活の質を向上させるための施策を検討し、プロジェクト案としてまとめます。委員会で検討された各プロジェクト案は、年に2回ほど開催される本会議に諮られ、子ども議員全員による議論の後、採決されることとなります。

また、可決されたプロジェクトは、実現に向けて委員会においてさらにその内容について検討を重ね、本会議が開催される度に、その経過及び実施結果が報告されることとなります。

■2009年12月10日（木）本会議開催

その本会議が2009年12月10日（木）（18：30～20：00）に市役所内で開催され、その様子を視察することができました。本会議は、保護者の方も見守るなか、市長による議事進行のもと、各委員会で検討されてきたプロジェクトの進行状況が報告されるとともに、新たなプロジェクト案が提出されました。この本会議に向け、9月から11月までの3カ月間、月2回委員会が開催され、子ども議員たちは議論を重ねてきました。

・『文化・遺産・国際交流委員会』の発表

『文化・遺産・国際交流委員会』からは、「本の交換会」のプロジェクトについて、委員会での検討内容が報告されました。

文化交流の一環として「本の交換会」を2010年1月から2月にかけて開催し、それに併せて、小学生・中学生による「詩のコンテスト」を行い、詩集を作成するというものです。「世界における文化の多様性」をテーマとして詩を募集し、コンテストの実施にあたっては、人権問題に関連したNGO・NPO団体と協力して行うことが計画されています。

・『連帯・健康・危機管理委員会』の発表

『連帯・健康・危機管理委員会』からは、2つのプロジェクトの進行状況について報告がありました。

一つ目は、「アフリカでの井戸設置に対する資金援助」で、この資金は、チャリティーやオークションなどの開催や、NGO・NPO団体、企業などからの協賛により調達するというものです。

二つ目は、ネット犯罪などから子どもたちを保護するための「子どものインターネットアクセス制限の法案」について検討するというものです。このため、専門家による生徒や教師、親を対象としたセミナー・フォーラムを開催することが計画されています。

・『スポーツ・余暇・青少年委員会』の発表

『スポーツ・余暇・青少年委員会』からは、まず、闘病のため長い病院生活を送っている子どもたちを支援するNPO団体と協力した「チャリティーイベント」のプロジェクトについて、ダンスパーティーを2回実施したことが報告されました。このチャリティーによる収益は727ユーロ（約10万円）であったようで、この

NPO 団体より表彰を受けたことも併せて報告されました。

また、委員会で検討された新たな 2 つのプロジェクト案が本会議に諮られました。一つは、「世代間交流のできるゲーム大会」を日曜日の午後を開催し、賞品はそれぞれ参加者で持ち寄るという案、もう一つは 10 歳から 12 歳を対象とした「次世代型環境にやさしい車の絵のコンクール」を実施する案が提案され、いずれも賛成多数により可決されました。

・『環境・衛生・市民委員会』の発表

『環境・衛生・市民委員会』からは、タバコのポイ捨てをなくすための「レストランや公共施設の入口に灰皿を設置するプロジェクト」について、2009 年 10 月 17 日（土）に最初の灰皿が設置され、今後、順次 80 個の灰皿が市役所によって設置されることが報告されました（フランスでは 2008 年から法律により、レストランなどの建物内での喫煙が禁止されています）。

また、「雨水利用推進」のプロジェクトの進行状況が報告されました。これは、学校の花壇の水やりに雨水を利用するもので、このため、学校校舎の雨どいの移設や貯水タンクの設置計画が発表されました。これには、校長先生の許可が必要となるため、校長先生に依頼文を送付したことも併せて報告されました。

・『中学生委員会』の発表

『中学生委員会』からは、まず 2009 年 10 月 17 日（土）、『環境・衛生・市民委員会』による灰皿の設置に併せて、市民に環境について関心を持ってもらう機会を提供する「緑の日」を開催したことが報告されました。

また、委員会で検討された新たな 2 つのプロジェクト案が本会議に提案されました。

一つ目は、2010 年 6 月 21 日に、市民の連帯感を深めるため「音楽祭」を開催するというプロジェクトです。このイベントは、公園にて夜の 11 時まで行う計画で、開催にあたっては市役所の許可と警察の協力が必要になるということです。

二つ目は、金曜日から日曜日の 3 日間にわたり「マンガ展」を開催するというプロジェクトです。

審議の結果、「音楽祭」は可決されましたが、「マンガ展」は否決されました。

・環境大臣からの手紙の紹介

サン・マンデ市は、外来種のスズメバチによって在来種のミツバチの生存が危機にさらされていることを危惧していることから、子ども議会では、2009 年 11 月 9 日、生物の多様性の保護を訴えるため、環境大臣宛てに手紙を送ったとのことでした。その返答の手紙が環境大臣より届いたことが、本会議において市長から報告されました。

■サン・マンデ市子ども議会視察を振り返って

子ども議会を視察して感じたことは、サン・マンデ市の子ども議員たちは、市長や市職員に対して、市政について気付いた点を報告したり、施策を提案したりするだけでなく、自らがつくったプロジェクトを、自らが実際に実現させていることに驚きました。

プロジェクト実施に係る経費については、市が措置した子ども議会の予算を執行して対応し、その予算内で実施できないプロジェクトについては、個別に市長が判断しているとのことでした。

そのプロジェクトの内容についても、自分たちの小学校区や中学校区の中の問題解決だけではなく、広く世界に目を向けた施策を立案し、その施策推進にあたっては、NPO 団体など関係機関との連携によって、うまく事業を実施していることにも感心しました。

また、子ども議員の選出にあたって選挙を行っている点、その任期が2年間である点も日本との違いです。任期については課題もあるとのこと、2年目を迎えた子ども議員たちの中には、勉学との両立が難しくなり、子ども議員を「辞職」する生徒もいるようで、現在4名の欠員がでていたとのことでした。

このような子ども議会での活動が、フランス人が議論好きで、プレゼンテーションが得意な理由の一つになっているのではと思います。小学生の段階から、グループで議論してプロジェクトを企画し、それを実現させた上で評価するという、このサン・マンデ市子ども議会のあり方は、日本の子ども議会にとっても大いに参考となるものでしょう。

垣内 明（堺市派遣）